

---

---

# 日本地球化学会ニュース

No .165

2001 .5 30

---

---

## 主な記事

### ●学会記事

- 2001年度日本地球化学会年会のお知らせ( )
- Geochemical Journal からのお知らせ
- [ 選挙公示 ] 日本地球化学会2002・2003年度役員選挙の立候補および推薦候補者の届出について
- 訃報
- 「鳥居基金」助成実施報告
- 研連議事録
- 2001年度第2回鳥居基金助成の募集について
- 三宅賞の推薦依頼
- 日産学術助成(学会推薦)

### ●その他の研究助成, 学会, シンポジウム等の各種情報のお知らせ

### ●書評

現在, 日本地球化学会のホームページを学術情報センターのホームページ内の Academic Society Home Village で公開しております。URL アドレスは,  
<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/gsj2/index.html>  
です。

シンポジウム, 人事公募等の各種情報は随時更新していますのでご覧下さい。

## 2001年度日本地球化学会年会のお知らせ( )

主催：日本地球化学会

共催：日本化学会

会期：2001年10月18日(木)～10月20日(土)

会場：学習院創立百周年記念会館(豊島区目白 学習院構内)

内容：一般講演(討論を含めて15分)

ポスターセッション(180 cm×90 cm)

学会賞受賞講演

特別セッション\*(概要は以下の通りです。)

総会：10月19日(金) 午後開催の予定です。

懇親会：10月19日(金) 記念会館二階小講堂にて6時からを予定しています。会費は6,000円です。

参加費：要旨集込みで会員は4,000円、学生は2,000円です。非会員は5,000円です。(ただし、予約された場合のみ送料を含みます。)

要旨集：3,000円(送料込み)

### \*特別セッションの概要

特別セッションは、10月18日(木)の午後に「21世紀の地球化学 同位体地球化学の新しい方向を探る」として、国外および国内の研究者の招待講演を企画しています。特別セッションは会員、学生、非会員を問わず無料です。会員外の多くの研究者の参加を希望しています。多くの方々へ、お知らせ下さると幸いです。特別セッションの講演要旨は、講演要旨集にも綴じ込みますが、別に、簡単なパンフレットも用意する予定です。

国外からの招待講演者および講演題目(仮題)は次のとおりです。

Prof. Keith O'Nions : Earth Sciences, Oxford University "New Directions in Isotope Geochemistry"

Prof. Robert N. Clayton : Department of Chemistry, University of Chicago 「プレソーラーのダストグレイン中の同位体組成 核合成にもとづく変動」

Prof. Takanobu Ishida : Department of Chemistry, State University of New York 「同位体効果 化学者の視点から」

Prof. James Farquhar : Department of Geology, University of Maryland 「惑星過程での質量に依存しない同位体分別」

講演申し込み締め切り：2001年7月21日(土)

### 講演申し込み方法

ホームページ上からの受付に限らせていただきます。ホームページ(<http://gsj.gakushuin.ac.jp/>)の所定の書式に従って送信して下さい。ホームページの開設は6月初旬を予定しています。

講演要旨締め切り：2001年8月18日(土) 必着です。

### 講演要旨の受付方法

郵送による受付に限らせていただきます。本号ニュース添付の「講演要旨作成上の注意」に従って作成し、下記宛までお送り下さい。封筒には講演要旨在中と朱書きして下さい。なお、遅延、郵送中の紛失等の責任は負いかねますので、送付方法には、充分に御留意下さい。

郵送先：〒171 8588 東京都豊島区目白1 5 1  
学習院大学理学部内  
日本地球化学会2001年会実行委員会

参加申し込み締め切り：2001年9月14日(金)

### 参加申し込み方法

ホームページ上からの受付に限らせていただきます。ホームページ(<http://gsj.gakushuin.ac.jp/>)の所定の書式に従って送信して下さい。ホームページの開設は6月初旬を予定しています。

### 送金方法

参加費、懇親会費等は9月14日(金)までに下記の郵便振替の口座宛にご送金下さい。通信欄に送金内容をご面倒でもお書き下さい。

口座番号：00100 4 30248

日本地球化学会2001年会実行委員会

宿泊に関しては、ホームページ上でいくつかのホテルをご案内いたします。10月中旬はホテルが込み合います。各自、お早めに御手配下さい。また、不明な点、ホームページにアクセスできないこと等がございましたら、ご面倒でも本実行委員会にお問い合わせ下さい。

問い合わせ先：〒171 8588 東京都豊島区目白1 5 1  
学習院大学理学部内  
日本地球化学会2001年会実行委員会  
長澤 宏、垣内正久

Tel : 03 3986 0221 内線6477, 6507, 6516

Fax : 03 5992 1029

E-mail : 620084@Gakushuin.ac.jp

860018@Gakushuin.ac.jp

### Geochemical Journal からのお知らせ GJのimpact factorの上昇と在庫処理について

最近出た1999年度の“Journal Citation Reports”によれば、Geochemical Journalのimpact factorは0.683で、1998年度に大幅上昇した0.579をさらに超えました。編集委員会では、とりあえずの目標として、Geochemical Journalのimpact factorを1以上にあげてを考えています。地球化学会の会員の方にはGeochemical Journalの論文引用を引き上げるきっかけとなるよう、なるべくGeochemical Journalに掲載された論文を引用して論文を発表していただくよう再度御協力をお願いします。論文の引用などはプラスのフィードバックがかかるので、ある程度までは意識的に引用し、そのことが多くの研究者が引用してくれるきっかけになればと思います。

なお、Geochemical Journalの過去の論文のCD-ROM化は、コピーライトの委譲の問題（1994年までのGeochemical Journalに掲載された論文で、日本地球化学会会員以外の著者全てにコピーライト委譲の手紙を発送しています）を含め、着実に進んでいます。そこで、将来のCD-ROM化を見込んで、過去のGeochemical Journalのハードコピーの大幅削減を考えています。これは、テラ出版での在庫量がかなり膨大になり、そのスリム化をしようというものです。実際的には、今年の年会（学習院大学）で、余分な冊子を希望者にはフリーで配布しようというものです。ただ、特定のものだけが減ることも予想されます。そこで、それ以前に国内、外国の大学/研究機関などでまとめて欲しいというところがあれば、優先的に過去のGJを寄贈しようということになりました。そういう希望先があれば、今年の年会までに私のところまで、どのVol.が希望かをお知らせ下さい。年会の前後に無料でお送りします。

Geochemical Journal 編集長 松田准一

Tel : 06 6850 5495, Fax : 06 6850 5541

E-mail : gj@ess.sci.osaka-u.ac.jp

### 【選挙公示】

#### 日本地球化学会2002・2003年度役員選挙の 立候補および推薦候補者の届出について

本会会則により2002・2003年度役員の選挙を以下の日程で行います。

立候補・候補者推薦締め切り：7月23日(月) 必着  
選挙公報・投票用紙発送：8月中旬  
投票締め切り：9月21日(金)  
選挙結果公表（総会）：10月19日(金)

つきましては、下記要領で会長・副会長・監事・評議員に対して、それぞれ立候補者および推薦候補者の届け出をしていただくようお願いいたします。

1. 会長1名、副会長1名、監事1名、評議員20名を選出します。
2. 立候補者の届け出は、届書を立候補者自身が、(1)選挙管理委員会に持参するか、または(2)選挙管理委員会宛に送付して下さい。
3. 推薦候補者の届け出は、推薦候補者名と推薦者名を記した届書に推薦候補者の承諾書を添えて、推薦者またはその代表者が、(1)選挙管理委員会に持参するか、または(2)選挙管理委員会宛に送付して下さい。なお役員選挙細則第8条により、次の方々は次期評議員に選出することができません。

河村公隆、蒲生俊敬、齋藤和男、中井俊一、吉田尚弘、海老原充、松田准一、日下部実

4. 第2項、第3項に記した以外の方法で届け出が行われた場合には、届け出を受け付けることができません。郵送の場合には裏に（選挙）と記し、「書留郵便」としてください。
5. 届け出の締め切りは2001年7月23日（必着）です。
6. 選挙管理委員会の所在地は次のとおりです。

〒113 0032 東京都文京区弥生1 1 1

東京大学地震研究所

中井俊一

Tel : 03 5841 5698, Fax : 03 5802 3391

E-mail : snakai@eri.u-tokyo.ac.jp

### 本会名誉会員 P. K. Kuroda 先生 ご逝去の知らせ

本会名誉会員で柴田賞受賞者の P. K. Kuroda 先生が、4月16日午前6時45分にネバダ州ラスベガスのご自宅でお亡くなりになりました。謹んでお悔やみ申し上げます。先生は、自然界における核分裂連鎖反応

(天然原子炉)の存在の可能性を1950年代に指摘され、それが1972年にアフリカのオウク鉱山で確認されたことはあまりに有名ですが、その他、太陽系初期における消滅核種 Pu 244の存在の証明など、放射性核種の地球化学・宇宙化学に多大の貢献をなさいました。また、米国アーカンソー大学において多数の学生を育て、本会の会員にも先生の指導と影響を受けた者が少なくありません。さらに、先生は、日本における地球化学・宇宙化学の発展のために本会に対して多額のご寄付をくださいましたが、これをもとに「ゴールドシュミット準備基金」が設立されました。改めて感謝の意を表すとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

日本地球化学会会長 松久幸敬

### 訃報

平成13年3月11日、末野重穂会員(筑波大学名誉教授)が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

### 2000年度第2回「鳥居基金」助成実施報告 (TE 24)

氏名：伊藤元雄(東京工業大学大学院理工学研究科・地球惑星科学科)

助成：32nd Lunar and planetary Science Conferenceにおける論文口頭発表

課題： $^{25}\text{Mg}$  diffusion in akermanite, gehlenite and Ak 70-Geh 30 solid solution

「鳥居基金」による海外渡航の援助により32nd Lunar and planetary Science Conferenceに参加し、論文発表を行いました。本会は3月12日より16日までアメリカ合衆国・ヒューストンのNASA(ジョンソン・スペースセンター)にて開催されました。参加者数は1,000人を越えるくらいで、非常に大きな規模の学会でした。5日間共に朝8時半から夕方5時まで、常時4カ所の会場で口頭発表が行われ、更に2日間ポスター発表が夜7時から9時半まで行われました。どの会場も活気がありましたが、特にAstrobiologyの分野と探査機NEARによる小惑星Erosの研究は最近のトピックであり、多くの人が聞き入っていた模様です。残念なことにErosのセッションと、自分の発表するセッションが重なってしまい、送られてきた最新のデータによる発表を見ることができませんでした。また会期中には名物と言っても良い「チリバー

ティー」が開かれました。これは各研究所・大学などが、その腕を振るって色々な味付けを施したチリを参加者に振る舞い、どれが一番かを競うものです。それぞれのチリを味わうと共に、テキサス料理に舌鼓を打ちながら、研究の話だけでなく参加者同士の会話を楽しむこともできました。

私はRefractory Inclusionのセッションで $^{25}\text{Mg}$  diffusion in akermanite, gehlenite and Ak 70-Geh 30 solid solutionという題目で口頭発表を行いました。今回発表した内容は、メリライトと呼ばれる鉱物の結晶中のMgの拡散係数を正確に決定するというものです。一番の特徴は、端成分だけでなく、固溶体結晶を実験に用いた事です。この系のMgの拡散係数を正確に決定することで、太陽系初期の熱的過程により乱された $^{26}\text{Al}$   $^{26}\text{Mg}$ のクロノメーターを拡散の観点からの定量的に議論が可能になります。本会にて発表した要旨は32nd Lunar and planetary Science Conferenceの要旨集(CD-ROM)に掲載されております。

国際的な研究会において口頭発表を行ったこと、そして多くの研究者と議論を行うなど、有意義な国際学会参加となりました。国際研究会参加費用補助を決定して下さった日本地球化学会と関係者各位に深く感謝しております。

### 第18期海洋科学研究連絡委員会(第1回) 議事録

日時：平成12年11月7日(火) 13:30~17:00

出席者：西田篤弘、斎藤常正、谷口旭、山口征矢、西田周平、松山優治、寺崎誠、石井春雄、角皆静男、平啓介、伊藤絹子、松田治、野崎義行、花輪公雄、前田明夫、友定彰、瀬岡和夫、古谷研、井内美郎

場所：日本学術会議

- ・第18期海洋科学研究連絡委員会発足にあたって
- 1. 第18期研連発足世話人・西田篤弘第4部会員の挨拶の後、18期委員長として谷口旭第6部会員を選出した。
- 2. 谷口新委員長の挨拶、出席委員の自己紹介の後、次の5幹事を選出した。  
西田周平(生物系)、伏見克彦(化学系)、松山優治(物理系)、伊藤絹子(水産)、井内美郎(地学系)
- 3. 海洋科学技術センターからオブザーバーを招請す

る事について角皆委員より提案があり、これを了承した。

4. 17期研連幹事であった花輪委員より、第17期からの申し送り事項3項目について説明があり、第18期研連はこれを引き継ぐこととした。併せて、第17期第9回委員会の議事録が朗読され、了承された。

#### ・報告事項

##### 1. 海洋研究科学委員会 (SCOR)

SCOR 副会長である角皆委員より、第25回総会の報告があった。主な項目は SOLAS が実施に向けて動きだした事、JGOFS 後継の検討が始まること、2002年に開かれる次回の SCOR 総会開催地が日本に決定したことなどである。

##### 2. 学会会議第134回総会

同総会および関連情報について谷口委員長より報告があった。骨子は以下の通り。総会では第18期の活動計画として、(1)人類的課題解決のための日本の計画 (Japan Perspective)、および(2)学術の状況並びに学術と社会との関係に依拠する新しい学術体系の提案、の2項目を骨格とする計画が採択されたこと、この項目から想像できるように、学術の体系や文部省科研費の分科細目編成などに革新的な変化が起こるかも知れず、また、海洋科学などのように現在は複合領域というあいまいなカテゴリーに押し込められている分野に対する認識が改まることも期待できる。

#### ・協議事項

##### 1. 国際学術交流事業平成13(2001)年度代表派遣候補者について

選出に先立ち、SCOR 国内委員を平啓介(物理)、角皆静男(化学)、谷口旭(生物)とすることとし、派遣候補者には、SCOR 副会長である角皆委員には SCOR から旅費が支給されることを見越して、谷口委員と角皆委員をこの順位で推薦することとした。

##### 2. 2002年 SCORE 総会開催準備について

次回の SCORE 総会が日本で開催される際の主催団体は海洋科学研連になるので、上記3名の国内委員が相談してその準備作業案を作ることとなった。

##### 3. 第18期の海洋科学研連の活動方針について

17期から引き継いだ3項目に SCORE 総会の開

催を加え、次の4項目を第18期の活動方針とすることが決定された。

- (1) 海洋科学の教育と研究の振興について引き続き審議する。

- (2) 「海洋科学研究・教育のための船舶運営機構に関する検討小委員会(略称:練習船小委)」を継続設置し、今期中に「海洋教育研究のための船舶不足と水産系大学練習船の今後について(仮題)」の対外報告を取りまとめる。

- (3) SCOR の第26回総会を平成14年秋に日本において開催する。

- (4) 文部省科学研究費補助金複合域細目「環境保全」の審査員候補推薦作業のルールを作る。

なお、練習船小委委員長については、平成13(2001年)年3月末までは花輪委員にお願いすることになった。

##### 4. 東京大学海洋研究所共同利用施設運営委員会委員の推薦について

平成13・14(2001~2003)年度の委員として、山口征矢氏(水産学)、田上英一郎氏(化学)、松野健氏(物理)、岡田尚武氏(地学)、古谷研氏(生物)の5名を推薦することとした。

次回は3月6日に開催の予定

(議事録作成・伊藤絹子)

### 日本学会会議鉱物学研究連絡委員会 鉱床学専門委員会(第18期第1回)議事録

日時:平成12年11月22日(水) 13:30~16:30

場所:日本学会会議6階第4部会会議室

出席者:青木謙一郎、石渡明、今井亮(浦辺徹郎の代理)、梶原良道(委員長)、千葉仁、根建心具、丸山孝彦、溝田忠人(五十音順)

欠席者:上野宏共

まず、青木会員から挨拶があり、委員長と幹事を互選した。

委員長:梶原良道

幹事:青木謙一郎・石渡明

#### 1. 報告

- (1) 第18期第1回学会会議報告(青木)

席上配布された「日本学会会議、総会・部会報告」に基づき、青木会員より報告があった。

ア. 7月26日~28日に第133回総会(第18期第1回)、

第4部会，各常置委員会，8月24日に第4部会，9月28日に連合部会と第4部会，10月30日～11月2日に第134回総会（第18期第2回），連合部会，第4部会，各種委員会が開催された。

イ．日本学術会議第18期役員

会 長 吉川弘之（第5部）

副会長 吉田民人（第1部）

副会長 黒川 清（第7部）

ウ．第4部会第18期役員

部 長 大滝仁志（立命館，化学）

副部長 土井範久（慶應，情報）

幹 事 岩槻邦男（放送大，植物）

幹 事 郷 信広（京大，物理）

エ．関連研究連絡委員会・専門委員会の定数と世話人（会員）

地質学研連 15名 齋藤常正

鉱物学研連 12名 青木謙一郎

鉱床学専門委 9名 青木謙一郎

地質科学総合研連 9名 米倉伸之

### 2001年度第2回鳥居基金助成の募集について

2001年度第2回鳥居基金助成（実施期間：2001年10月から2002年3月まで）の応募の締め切りは2001年7月末日となります。本学会ホームページ，及び「地球化学」の会員名簿号に応募要項がありますので，ご参照の上，応募書類を提出して下さい。

提出先：〒113 8622 東京都文京区本駒込5 16 9

（財）日本学会事務センター内

日本地球化学会鳥居基金委員会

なお本件に関する問い合わせは庶務幹事（下記）まで。

坂田 将

〒305 8567 つくば市東1 1 1 中央第7

産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門

資源有機地化学研究グループ

Tel：0298 61 3898，Fax：0298 61 3666

E-mail：su-sakata@aist.go.jp

### 2001年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」 および「奨励賞」候補者の募集

地球化学研究協会より，「三宅賞」および「奨励賞」候補者の推薦依頼がありました。下記の要領で応募して下さい。

1．三宅賞

対象：地球化学に顕著な業績をおさめた科学者

表彰内容：賞状，副賞として賞金30万円，毎年1件（1名）

2．奨励賞

対象：推薦締切日に35歳以下で，地球化学の進歩に優れた業績を挙げ，将来の発展が期待される研究者

助成内容：1件10万円，毎年1件（1名）

3．応募方法：所定の用紙に略歴，研究業績，推薦理由などを記入し，下記のあて先へ送付して下さい。

4．締切日：2001年8月31日

5．応募先：地球化学研究協会

〒166 0002 東京都杉並区高円寺北4 29 2 217

Tel：03 3330 2455（Fax 兼用）

なお詳細な応募要領と応募用紙が本学会（庶務幹事）にありますので下記宛にご請求下さい。

坂田 将

〒305 8567 つくば市東1 1 1 中央第7

産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門

Tel：0298 61 3898，Fax：0298 61 3666

E-mail：ssakata@gsj.go.jp

### 平成13年度日産学術研究助成候補者 推薦依頼について（学会推薦）

本年度の標記研究助成に関する推薦依頼は5月10日現在，まだ日本地球化学会に届いていませんが，次号のニュースでは締め切りに間に合わなくなる恐れがあり，現在確認されている情報に基づき，以下にご案内申し上げます。

1．推薦枠：学会推薦の対象となる助成は昨年度と同様，奨励研究（40歳以下）のみです（一般研究は昨年度から廃止されています）。

2．推薦件数：件数に制限は有りません（原則として全件推薦）。

3．選考：日産科学振興財団では下記の要件などを勘案して審査・選考が行われます。

- ・財団の設定した研究課題の趣旨，助成の要件に合致した研究であること。
- ・社会的ないし学術的要請に合致した研究であること。
- ・独創的・先駆的な研究であること。
- ・研究者あるいは研究グループの研究遂行能力が十分に高いものであること。

4. 推薦者：本学会の会長より推薦を行います。
5. 推薦手続き：所定の推薦用紙を日産科学財団のホームページ( <http://www.t3.rim.or.jp/at02-nsj/> ) からダウンロードするか、本学会庶務幹事(下記)にご請求いただき、必要事項を記入の上、庶務幹事宛にお送り下さい。8月10日(金) 必着。

坂田 将

〒305 8567 つくば市東1 1 1 中央第7  
産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門  
資源有機地化学研究グループ  
Tel : 0298 61 3898 , Fax : 0298 61 3666  
E-mail : su-sakata@aist.go.jp

6. その他：助成の対象とする研究課題など、本年度募集の詳細につきましては、日産科学振興財団のホームページ( <http://www.t3.rim.or.jp/at02-nsj/> ) をご参照下さい。

### 第23回宇宙ステーション利用計画 ワークショップのお知らせ

標記のワークショップの開催案内が届きましたのでご案内いたします。

会合名：第23回宇宙ステーション利用計画ワークショップ

開催日時：平成13年7月23日(月) 9:30~17:00  
7月24日(火) 9:30~17:00  
7月25日(水) 9:30~17:00

開催場所：砂防会館 シェーンパッハ・砂防  
(〒102 0093 東京都千代田区平河町2 7 5)

会合の内容：

宇宙ステーション利用に関する我が国の推進体制、宇宙環境利用研究の実施状況等について、利用者の理解を深め、利用の拡大を図るとともに、利用者の意見をとりまとめ、今後の宇宙ステーションの利用計画等に反映する。

主催者名：宇宙開発事業団

後援団体名：文部科学省(予定)

協賛団体名：29の学会の協賛(予定)

参加費：無料

詳細問い合わせ先：

(財)宇宙環境利用推進センター

宇宙実験推進部 担当：米/野村

〒169 8624 東京都新宿区西早稲田3 30 16

Tel : 03 5273 2442 , Fax : 03 5273 0705

E-mail : sepd@jsup.or.jp

(参考)宇宙開発事業団ホームページ：

<http://jem.tksc.nasda.go.jp/utiliz/workshop/index.html>

### 第45回粘土科学討論会のお知らせ

第45回粘土科学討論会を下記の要領にて開催いたします。皆様の参加をお待ち致します。

1) 期 日：平成13年9月13日(木)・14日(金)

2) 主 催：日本粘土学会

3) 共催学会：日本地球化学会ほか

4) 会 場：東洋大学朝霞キャンパス(2号館)  
埼玉県朝霞市岡2 11 10

5) 日 程：

9月13日	9:00~12:00	口頭発表(2会場)
	13:00~13:45	特別講演
	13:50~17:50	須藤俊男先生シンポジウム
	18:00~	懇親会(東洋大学朝霞キャンパス内)

9月14日	9:00~11:00	口頭発表(2会場)
	11:00~12:00	日本粘土学会総会
	12:00~15:00	ポスター討論
	15:00~17:00	口頭発表

6) 特別講演：生沼 郁(東洋大学経済学部教授)  
「須藤先生と日本粘土学会の足跡と将来」

7) 須藤俊男先生メモリアルシンポジウム：「21世紀の粘土科学粘土科学の過去・現在・未来 21世紀への跳躍と夢」

8) 講演申込締切：6月22日(金)

9) 講演要旨締切：7月27日(金)

10) 連絡先：東洋大学経済学部社会経済システム学科  
西山 勉

Tel : 0484 68 6631 (実験室)または

0484 68 6721 (研究室),

Fax : 0484 68 6790 (2号館)

E-mail : nishiyam@toyonet.toyo.ac.jp

### インバク「世界火山シンポジウム」の 開催について

静岡県企画部より標記シンポジウムの案内が届いています。

静岡県におきましては、さる12月31日から開催されている政府主催のインターネット博覧会(通称：インバク)において、「標高7,000m!」のワンダーワー

ルド」をテーマとするパピリオン（ホームページ）を  
出展し、富士山、駿河湾等に関連する様々な情報提供  
やイベントを実施しております。

この中で、4月23日から新たに、「火山と人間社会」  
をメインテーマとする「世界火山シンポジウム@  
FUJI・WORLD」を開催することとしております。

本シンポジウムは、火山災害のクライシスマネー  
ジメント、火山災害救援と復興、平穏時における火山と  
まちづくりなどのテーマをめぐって、インターネット  
を通じて約半年間にわたり、広く議論し、意見交換を  
行うものです。

## インパク「世界火山シンポジウム@FUJI・WORLD」 の趣旨・概要

### テーマの設定

【全体テーマ】 「火山と人間社会」

【分科会テーマ】

火山災害のクライシスマネージメント  
火山災害救援と復興  
火山とともに生きる

### コーディネーター・分科会議長等

・全体コーディネーター：伊藤和明氏（防災情報機  
構理事・専門委員，元NHK解説委員）

・分科会議長・副議長

火山災害のクライシスマネージメント

議長：川辺禎久氏（産業技術総合研究所地  
球科学情報部門）

副議長：松島 健氏（九州大学島原地震火山  
観測研究センター）

火山災害救援と復興

議長：中川和之氏（時事通信社神戸総局）

副議長：伊藤英之氏（砂防・地すべり技術セ  
ンター）

火山とともに生きる

議長：小山真人氏（静岡大学教育学部）

副議長：林信太郎氏（秋田大学教育文化学部）

### シンポジウムの進め方

本シンポジウムは、インターネット上で、掲示板  
機能（BBS）を活用した自由な意見の投稿・交換  
によって進めます。

シンポジウム開会

・シンポジウム全体のコーディネーターが、「火山  
と人間社会」というテーマの趣旨及びサブテーマ  
に関連する問題意識について説明します。

・各分科会の議長が、分科会のテーマに関する趣旨  
の説明や問題提起を行います。

各分科会における意見交換（分科会ごとのBBS  
の設置）

・議長の問題提起を受けて、分科会のパネラー、主  
要な発言者、一般参加者が順次意見を書き込んで  
いきます。

・議長が適宜、議論の軌道修正、論点の整理、新た  
な問題提起などを行い、議論を進行していきま  
す。

・各分科会では、あらかじめ主要な論点を3～4程  
度用意し、議長が、順次問題提起しながら進めま  
す。

リアル・シンポジウムの開催

・インターネット上での議論を踏まえ、本年11月  
（予定）に静岡県内の会場において実際のシンポ  
ジウムを開催し、成果のまとめを行います。

### シンポジウム開催のスケジュール

4月23日 シンポジウム開会（サイト一般公開）

4～10月上旬 各分科会での意見交換

11月 リアル・シンポジウムの開催（日  
時・会場は未定）

11～12月 シンポジウムに対する感想・意見の  
投稿受付

### シンポジウムへの参加方法

・インターネットで、インパク静岡県パピリオンの  
「世界火山シンポジウム」のページにアクセスす  
ることにより、誰でもシンポジウムに参加するこ  
とができます。

・シンポジウム分科会の掲示板への意見等の投稿  
は、基本的に誰でも行うことができます。（最初  
にメールアドレス等の登録が必要です。）

### 静岡県パピリオンのトップページアドレス

<http://www.7000.m.com/inpaku/>

### 「世界火山シンポジウム」のアドレス

<http://www.7000.m.com/inpaku/fujiworld>

## 第10回国際ヒ素シンポジウムのご案内

主催：日本ヒ素研究会

期日：2001年11月29日(木)～30日(金)

開場：東京都千代田区九段南4 8 24

日本大学会館（JR、地下鉄市ヶ谷駅徒歩2分）

特別講演：

1 . Formation and Fate of Group 5 Metalloids in the Natural Environment

Prof. Peter J. Craig, De Montfort Univ., U.K.

2 . Arsenic in Yellowknife, NWT, Canada : The legacy of gold mining

Prof. William R. Cullen, Univ. British Columbia, Canada

他, 5 題予定

主題

- 1 ヒ素の生体への影響
- 2 生物によるヒ素生体濃縮と生体内変換
- 3 環境におけるヒ素の分布と化学形
- 4 環境からのヒ素の除去法
- 5 ヒ素の分析法
- 6 ヒ素の化学と工業

発表形式 : 口頭発表 講演時間は討論を含め15分  
ポスターセッション 掲示は2時間,  
討論1時間

言語 : 講演は日本語, スライドおよび OHP は英語表記, ポスターは英語表記

参加および演題申込締切 : 2001年8月31日(金)

要旨原稿締切 : 2001年9月28日(金)

参加登録費 : 一般5,000円, 学生3,000円

懇親会費 : 5,000円

連絡先 : 第10回国際ヒ素シンポジウム

実行委員長 貝瀬利一

東京薬科大学・生命科学部

〒192 0392 八王子市堀ノ内1432 1

Tel : 0426 76 6770

E-mail : kaise@ls.toyaku.ac.jp

### 第13回二次イオン質量分析法 国際会議のお知らせ

Dear Colleague,

13th International Conference on Secondary Ion Mass Spectrometry and Related Topics (SIMS XIII) will be held at Nara, Japan from November 11 to 16, 2001.

Information on the 2nd announcement and call for papers can be found at

[http://momiji.esc.u-tokyo.ac.jp/sims\\_13/](http://momiji.esc.u-tokyo.ac.jp/sims_13/)

(Printed version of 2nd circular will be available soon.)

Please note that the deadline for the abstract submission is June 15, 2001.

We hope your contributions.

We are looking forward to see you in Nara.

Sincerely

Tetsuo SAKAMOTO

SIMS XIII Secretariat

Attn. : Prof. Masanori OWARI

Environmental Science Center, The University of Tokyo

7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033

Phone : + 81-3-5841-2993

Fax : + 81-3-5841-2979

E-mail : [sims\\_13@momiji.esc.u-tokyo.ac.jp](mailto:sims_13@momiji.esc.u-tokyo.ac.jp)

Web-page : [http://momiji.esc.u-tokyo.ac.jp/sims\\_13/](http://momiji.esc.u-tokyo.ac.jp/sims_13/)

### 第24回極域気水圏シンポジウム開催の御案内

極地研究所では毎年極域に関わる研究をテーマとしたシンポジウムを開催しております。このうちの大气, 雪氷, 海洋圏の研究に関する気水圏シンポジウムを本年も開催することとなりました。

現在南極地域では, 南極地域観測隊による短期間の集中研究として5ヶ年計画で「極域大气 雪氷 海洋圏における環境変動機構に関する研究」が, 長期間の観測を主目的とした「地球環境変動に伴う大气・氷床・海洋のモニタリング」が実施されております。また国内ではこれまで得られた観測データ, 試料等による研究が進展しています。ドームふじ観測拠点で得られた氷床コア, 大气中, 雪氷中の微量成分データ等を利用した研究が進展中であり。一方北極地域ではスバルバル, グリーンランド, カナダ, シベリア等多地域に於いて, 大气, 雪氷, 海洋に関する多岐にわたる観測が行われております。さらに次の南極地域観測隊からは新しいテーマの5ヶ年計画「南極域からみた地球規模環境変化の総合研究」がスタートすることとなっております。

これまでの諸観測から得られた資試料の解析結果はもとより, 南北両極・寒冷域を主な対象とした大气科学, 雪氷学, 海洋学に関する研究成果, 研究展望などを議論するシンポジウムを下記の通り開催いたします。広く発表を受け付けておりますので, ご応募下さ

るようご案内申し上げます。

日時：2001年11月20日(火)・21日(水)  
会場：国立極地研究所・6階講堂  
申込締切：2001年9月24日(月) 必着  
問合せ先：国立極地研究所 和田 誠，岡崎美紀  
〒173 8515 東京都板橋区加賀1 9 10  
Tel：03 3962 3257，03 3962 5580，  
Fax：03 3962 5719  
E-mail：icesamp@pmg.nipr.ac.jp

### 九州大学理学研究院地球惑星科学部門 助教授公募のお知らせ

公募人員：太陽惑星系科学講座所属助教授1名  
専門分野：地球惑星進化学（地球外物質の実験的研究  
と教育に意欲を持ち，高度な分析機器の操  
作の指導が出来る方）

着任時期：決定後なるべく早い時期

提出書類

履歴書

これまでの研究概要（A4用紙2枚以内）  
業績リスト（原著論文，総説，報告書，著書に区分）  
主要論文別刷3編  
研究・教育に対する抱負（A4用紙2枚以内）  
応募者を熟知し，意見を聞ける方（2名）の氏名・  
連絡先と応募者との関係

応募締切：平成13年7月2日

書類送付先および問合せ先：

〒812 8581 福岡市東区箱崎6 10 1

九州大学理学研究院地

球惑星科学部門 村江達士

Tel：0926 42 2660

E-mail：murae@geo.kyushu-u.ac.jp

提出書類は別刷以外全てA4用紙を使用し，封筒  
に「応募書類在中」と朱書，簡易書留  
で郵送のこと。

### 書評

『データで示す日本土壌の有害金属汚染』

著者 浅見輝男

出版社 アグネ技術センター 7,000円＋税

ISBN 4 900041 89 0 C 3051 B 5版 402ページ

地震と金属元素禍は良く似ている。どちらも忘れた

ころに襲ってくる。地震は，ここには来ないので心配  
ないと高をくくっていると，やって来る。ヒ素は古い  
毒で，歴史の舞台で何度も利用されてきた毒であつた  
にもかかわらず，ヒ素カレー中毒事件では専門家が同  
定するまでに相当の時間がかかる程，忘却の彼方に押  
しやられていた。もう一つの共通点はどちらも地球の  
営みの結果発生する（occur）という点であり，これ  
は我々地球化学者の関心事である。

さて，本書は日本各地の金属による汚染を総括的に  
取り上げたものである。一言でこの本の特徴を言い表  
すとすれば，日本土壌の重金属の諸問題に関するデー  
タブックと問題に対する科学的なメッセージの込めら  
れた警告書とが足し合わされたものと言える。しかし  
本書を読み進んでいくと，私のような地球化学には  
まっている人には次のような事実も読み取れる。それ  
は『陸において重金属濃度には割合ばらつきが多く，  
人間が関わらなくとも自然に金属元素が濃縮されてい  
るところがかなりあるらしい。』という意外な事実で  
ある。確かに尾瀬ヶ原は泥炭層を形成して地球の炭素  
の循環に関与するが，同時に鉄，マンガン，ニッケル  
などを多く含む周囲の山々からの流水によって慢性的  
な重金属汚染にさらされている。バングラディッシュの  
地下水のヒ素中毒は大規模である。一方，これらの有  
害金属の多くは人類に有用な地下資源であり，産業活  
動により分布がかき乱されている場所もかなりある。  
そのような場所では，もともと生物圏から分離されて  
いたものが生物圏の循環に加えられ，河川，大気を経  
由して拡散し，問題を引き起こしている。そのことが  
生物への影響を通して地球の物質循環にとってどのよ  
うな意味を持つのかを問うことは，我々地球化学者に  
とって大きな意義があるように思われる。そもそも，  
地球表層における微量金属の分布や移動については良  
く理解しておいた方が良いのではなかろうか。本書は  
そのことに関しての解説書になっている。

この本に興味を抱いた人のために，この本の構成を  
簡単に概観する。本書は4部29章と参考資料からな  
る。第一部では，地球化学から始まり，日本における  
金属元素の貿易，世界における土壌汚染，基準値を概  
観している。第二部では，カドミウム，亜鉛，鉛，銅  
の汚染と植物による吸収を論じている。産業，法律か  
ら各地の鉱山の実態，農業，食品，疾病と多岐に及ん  
でいる。この中で最も詳しく書かれているのが全国各  
地の鉱山での汚染の実態で，60ページが割かれてい  
る。第三部では，ベリリウム，クロム，ヒ素，モリブ

デン，銀，インジウム，アンチモン，ピスマス，テルル，水銀，タリウムなどについて，個別に産業，汚染状況，植物への吸収や影響について書かれている。第四部では，我が国の各都市における重金属汚染の実態を道路脇粉塵から説き，各都市で比較されている。これらの金属は大気を通して海にも負荷されうるものである。そして参考資料として，分析方法がまとめられている。

この本の内容のほとんどが著者自らが足を運び研究したことで，自身の業績の集大成である点は非常に驚かされた。掲載されている図表は260に及び，データ集として役に立つであろう。データには微量元素の濃

度分布や植物影響だけでなく，関連法規や基準，公的な文書などが含まれ，問題に対する行政のあり方の批判も読み取れる。さらに500編弱の引用文献が巻末に整理され，索引が充実している。恐らくこのような本は今までなかったし，今後も当分現れないのではないかと感じさせるような力作である。やや高価であるが，本のボリュームと情報量を考えると決して高価であると感じない。著者は茨城大学の名誉教授で，この分野の国際的研究者であり，現在，日本学会議の会員であることを付記する。

東京農工大 赤木 右

### ニュースへ記事やご意見をお寄せください

皆様の情報・原稿をお待ちしています。地球化学に関連した研究集会、シンポジウムの案内、人材募集、書評、研究機関の紹介など何でも結構です。編集の都合上、電子メール、フロッピー（マックもしくはDos/Vいずれでも結構です）での原稿を歓迎いたしますので、ご協力の程よろしく願いいたします。次号の発行は2001年8月下旬頃を予定しています。ニュース原稿は7月末までにお送りいただくよう、お願いいたします。また、ホームページに関するご意見もお寄せください。

#### 編集担当者

中井俊一

〒113 0032 東京都文京区弥生1 1 1

東京大学地震研究所

Tel : 03 5841 5698 , Fax : 03 5802 3391 ,

E-mail : snakai@eri.u-tokyo.ac.jp

鍵 裕之

〒113 0033 東京都文京区本郷7 3 1

東京大学大学院理学系研究科附属地殻化学実験施設